

1997.3.2

RIVERSIDE  
ORCHESTRA  
FESTIVAL  
'97

# リバーサイド・オーケストラ・フェスティバル'97

1997年3月2日(日) かつしかシンフォニーヒルズ・モーツァルトホール

主催／(財)葛飾区文化振興財団

後援／市川市教育委員会・江戸川区教育委員会・葛飾区教育委員会



本日は『リバーサイド・オーケストラ・フェスティバル'97』にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

このフェスティバルは、葛飾区内外で活動の幅を広げている「葛飾フィルハーモニー管弦楽団」と、各地域においてそれぞれ活躍されているアマチュアオーケストラとが、同じステージを共有することにより交流を深め、各団体においては演奏技術の向上を、また地域の皆様には気軽にオーケストラの演奏に触れていただける機会をご提供するということを目的としており、今回で4回目の開催となりました。

本年も江戸川沿いの「市川交響楽団」「江戸川フィルハーモニーオーケストラ」両団を迎えて、ベートーヴェンの『運命』をメインに、魅力あふれるプログラムをお贈りいたします。ご来場の皆様には、どうか各オーケストラの熟演をお楽しみいただくとともに、今後とも暖かいご声援をお贈りいただけますよう、よろしく願い申し上げます。

最後に、事前の準備にご尽力いただいた各団体役員をはじめ、後援いただいた各市区関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(財)葛飾区文化振興財団

## フンパーディンク：歌劇「ヘンゼルとグレーテル」序曲

E. Humperdinck: "Hänsel und Gretel" Overture

(市川交響楽団)

## リムスキー＝コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」

Rimsky-Korsakov: Симфоническая сюита "Шехеразада"

(江戸川・葛飾合同オーケストラ)

## ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」

L.v. Beethoven: Symphonie No.5 "Schicksal"

(3楽団合同オーケストラ)

指揮／江原 功

## 指揮者プロフィール

### 江原 功

Isao Ehara

1983年、桐朋学園大学入学。指揮を秋山和慶、小澤征爾、堤俊作各氏に、室内楽を故P.ロジェ、K.ライスター両氏に、管楽器のオーケストラ奏法を中川良平氏に師事。87年、同大学音楽学部卒業。

89年、同大学研究科修了後、三善晃、徳永二男両氏の推薦でNHK交響楽団の見学生になる。同年11月、作曲家入野義朗氏を記念した現代音楽のコンサートで、P.ブーレーズ氏により創設されたIRCAM所属の作曲家コート・リップ氏の作品の初演を指揮。

90年10月、ニューヨーク・シティ・バレエ団のメンバーによる日本公演を指揮してバレエ界へデビュー。その後、山本禮子バレエ団、貞松・浜田バレエ団、ユニークバレエシアター、野間バレエ団公演を指揮。93年よりユニークバレエシアターの音楽監督を務める。

92年2月、早稲田大学交響楽団のワールドツアーにて、V I の服部譲二氏と共演。93年には松本室内合奏団スペシャルコンサートにてV I の宗倫



匡氏と共演し、94年12月にはV I aの川本嘉子氏と、95年7月にはV I の徳永二男氏と共演した。また、昨年1月にはH p の吉野直子氏と共演している。

現在、演奏活動のほかには作曲家故入野義朗氏により創設されたJML音楽事務所で指揮講座を受け持ち、桐朋学園大学にて中川良平氏の助手を務めている。葛飾フィルハーモニー管弦楽団指揮者。

●  
音楽舞踊新聞No.2342紙上—「彼の指揮する音楽は、躍動感も叙情もあり、問の取り方も巧み。最近では珍しく聴かせた音楽だった。」— 白石祐史氏

## ソロヴァイオリン

### 宮川正雪

Masayuki Miyakawa  
(シェエラザード)

3歳より才能教育研究会にてヴァイオリンを始める。東京芸術大学を経て、1990年同大学院修士課程修了。これまでにヴァイオリンを近藤富雄、蓮池浩子、長谷川孝一、浦川宜也、澤和樹、ベラ・カトーナの各氏に師事。

全日本学生音楽コンクール西日本大会小学校の部(76年)、高校の部(80年)第1位。88年第1

回宝塚ベガ音楽コンクール入選。89年国際芸術連盟「新人推薦コンサート」出演。94年NHK-FMベスト・オブ・クラシック出演。96年10月かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホールにて、大森さち子(ピアノ)とともにデュオ・リサイタルを開催。

新ヴィヴァルディ合奏団メンバー。埼玉県立松伏高校音楽科ヴァイオリン講師。桐蔭学園女子部弦楽部講師。葛飾フィルハーモニー管弦楽団、船橋市ジュニアオーケストラトレーナー。葛飾区在住。

# 曲目解説

## 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」序曲

E. フンパーディンク

“Hänsel und Gretel” Ouverture

E. Humperdinck (1854-1921)

歌劇「ヘンゼルとグレーテル」は、1893年に初演された全3幕のオペラで、グリム童話で有名な同名の物語に基づいて作曲されたものです。作曲者のE.フンパーディンクは、彼の作曲の師であるリヒャルト・ワーグナーのライト・モティーフ（指示動機）の手法やオーケストレーションを使い、ドイツの子供たちの歌も織り込んで、大変解りやすいオペラに作りあげています。毎年クリスマスになると、ドイツでは子供向けオペラとしてこの作品が数多く上演され、初めてオペラ観賞を体験する子供たちが両親と一緒に歌劇場に足を運ぶそうです。

曲の始まりでは、ホルンの四重奏によってこのオペラの主題となる「夕べの祈りのテーマ」が静かに演奏され、次第に弦楽器へ受け継がれます。序奏が終わると、夜明けを思わせるトランペットのファンファーレに続いて、主人公たちの快活な様子、「お菓子の家」、「魔女」などが旋律の中で表され、それらが展開し組み合わせられてこの曲の頂点に向かいます。やがて次第に曲の高揚もおさまり、冒頭の「夕べの祈りのテーマ」が再び示されて静かに曲を閉じます。

普段あまり演奏されることのない作品ですが、一度体験すると心あたたまる逸品の一つとなるのではないのでしょうか。

(曲目解説：時田 雄)

## 交響組曲「シェエラザード」op.35

リムスキー=コルサコフ

Симфоническая сюита “Шехеразада” op.35

Rimsky-Korsakov (1844-1908)

“昔々、トルコに広大な領地を持つ大金持ちのサルタン・シャリアールという王様がいました。シャリアール王は、『女性というものは信用できぬもの！』と信じ、最初の一夜を過ごした翌朝にはその妃を殺してしまうという、残酷な習慣を続けていました。

月日が経ち、最後の妃として大臣の娘であるシェエラザードが王様のもとへやってきました。彼女は大変かしこい娘だったので、自分が殺されないよう、シャリアール王に夜から朝にかけて、世にも不思議な物語を話して聞かせました。このお話は大変おもしろく、話の続きを聞きたい王様は彼女を殺すことができません。こうしてシェエラザードは、千一夜王様に語り続け、ついに王様はその残酷な習慣をとりやめ、シェエラザードを妃に迎えて幸せに暮らしました。”

チャイコフスキーとともにロシアの代表的な作曲家であるリムスキー=コルサコフは、この「千一夜物語（アラビアンナイト）」の中心人物シェエラザードをもとにして、交響組曲「シェエラザード」を生み出しました。独奏ヴァイオリンで表されているシェエラザードが、残酷なシャリアール王に不思議な物語を語るという設定のもと、シェエラザードが語る物語の中の情景が描かれてゆく、非常に華やかな作品です。

さて、このシェエラザードの世にも不思議な物語、王様でなくとも続きが知りたい。結末はどうなるのでしょうか…

## I. 海とシンドバットの船

形式は幻想曲風の自由な形がとられています。まず、冒頭の力強い旋律によって、残酷な王シャリアールが登場します。続く独奏ヴァイオリンはシェエラザードを表しており、王様に「千一夜にわたる不思議な物語」を語り始めるのです。この楽章では、シンドバットの乗った船が、波静かな岸辺から次第に広大な大海原の中に出て行く情景が描かれています。

## II. カランダール公の物語

カランダール公は、ピントが少し外れたユーモラスでおどけた王子様で、ここではこうしたカランダール公の性格が描かれ、シャリアール王も思わず笑ってしまうのです。

## III. 若き王子と若き王女

ロマンス風の叙情的な曲です。東洋風なヴァイオリンの旋律が美しく、若い王子と若い王女の恋する情景が描かれます。

## IV. バグダッドの祭、海、船の難破

再び王様の力強い旋律とシェエラザードの旋律が表れ、2人で何かを語り合っているようです。そして次第に祭のリズムを刻みだし、これに乗ってフルートが楽しげに祭の旋律を奏で始めると、祭のはじまりとなります。続いてこれまでに登場した旋律が次々に表れクライマックスを迎えますが、最後に船は難破してしまいます。ここでシェエラザードが物語を話し終えると、朝がやって来るのです。

(曲目解説：荒川 奈月)

# 交響曲第5番 ハ短調「運命」

L.v. ベートーヴェン

Symphonie No.5 "Schicksal" op.67

L. v. Beethoven (1770-1827)

バッハやモーツァルト、ブラームスだっているのに、やはり「クラシックの王様は？」と聞かれれば「ベートーヴェン」と答える人が多いでしょう。ベートーヴェンは、“誰をもハハッと地面にひれ伏さずにはおかない、尊厳と威光と荘重と厳粛と脱帽とが入り交じった作曲家”なのであります。その「楽聖」が作る音楽は、人間が苦境に立たされた時、最も心にしみ入る音楽と言えるでしょう。その中の超傑作「運命」は、まさに『荒れ狂う海のように盛り上がる怒りと、谷底に沈むような絶望と精神のうねり、やがて雲間から見える一筋の光。そして絶望への勝利』と言う「精神のドラマ」が描かれているのです。

「運命」は、ご存じのとおり「ジャジャジャジャーン!!!」という「運命の動機」で始まります。しかし、これは本当はまちがいです。正しくは「ン、ジャジャジャジャーン!!!」なのです。この「ン」という休止符1コが重要で、その日の演奏の良し悪しを左右しかねないくせものなのです。

ところで、この曲の「運命」という名称、ベートーヴェン自身は用いていないのです。『ベートーヴェン自身が“運命はこのように扉をたたく”と言った』と弟子のシンドラーが後の人に伝えたことから、この名が浸透しているだけだそうです。

## I. Allegro con brio

交響曲史上、まれにみる激烈さは、まさに圧巻。最も有名な楽章であり、「運命の動機」がもっばら用いられ、曲が展開していきます。

## II. Andante con moto

絶望的な第1楽章の激烈さを持たず、むしろなぐさめるような優しさを持つ楽章ですが、時として絶望感が戻ってくることもあり、精神的な不安定さを表しているようです。

## III. Allegro

底からわき出るようなチェロとコントラバスで始まり、その後ホルンによる「運命の動機」が鳴り響きます。そうして不気味に蠢きながら少しずつ力を増し、切れ目なく第4楽章に突入します。

## IV. Allegro

力強く、喜ばしい「苦境から抜け出た歓喜」が高らかに歌いあげられ、曲は華やかに結ばれます。

(曲目解説：荒川 奈月)

# 市川交響楽団



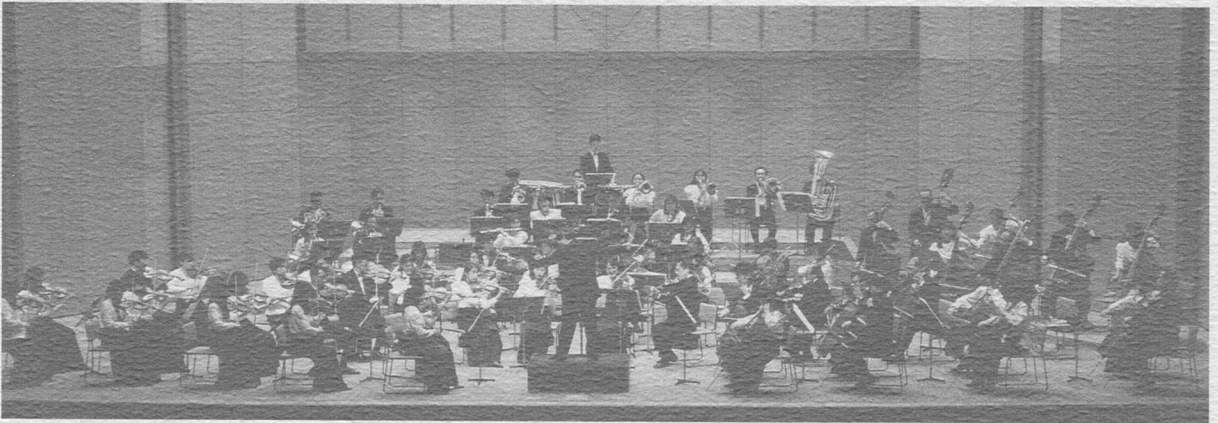
本年、創立46周年を迎える、アマチュアとしては全国有数の伝統あるオーケストラ。現在メンバーは120余名、年齢構成は20代から70代の大変広い層にわたり、職業も会社員、教師、主婦などそれぞれですが、市川市で開かれる演奏会を中心に、全国各地で開催される文化行事やオーケストラフェスティバル等にも出演し、演奏を披露しています。著名な音楽家との協演も多数経験していますが、地元市川市ゆかりの音楽家との協演を通じて、地域文化の振興にも力を入れています。1999年（平成11年）8月には全国アマチュアオーケストラフェスティバルが地元市川市で開催され、海外からの参加も含め、約250名のアマオケ愛好家が集まります。

## 江戸川フィルハーモニーオーケストラ



江戸川フィルハーモニーオーケストラ（略称・江戸フィル）は、1985年11月に区内在住の音楽関係者を中心として結成され、同年12月の江戸川区音楽祭において、チャイコフスキー「くるみ割り人形」の演奏で、足跡の第1歩を踏み出しました。翌86年9月には、故山田一雄氏の指導で第1回定期演奏会を開催し、その後も毎年著名な指揮者、ソリストを迎えて定期演奏会を開催しています。また、昨年は江戸フィル創設10周年記念として、区内在住の作曲家佐藤眞氏の交響詩「北の大地」を、作曲者自身の指揮で演奏し、大好評を博しました。現在は、定期演奏会をはじめ、フレッシュコンサート、親子コンサート、江戸川区音楽祭、また友好都市である山形県鶴岡市との市民レベルでの交流を目的としたベートーヴェン「第九」コンサートなど幅広い活動を展開しています。特に、区民オーケストラとしての1つの方向性として、区音楽協議会主催による新人演奏会オーディション入賞者との協演や、区内出身あるいは在住の実力ある演奏家との積極的な協演が、江戸フィルの活動の大きな特徴となっています。

# 葛飾フィルハーモニー管弦楽団



葛飾フィルハーモニー管弦楽団は1990年11月1日に、葛飾区文化振興財団の呼び掛けに応じて、区民の音楽愛好家が集まって結成されました。92年春には念願のかつしかシンフォニーヒルズのオープン記念演奏会を開催。当団は設立当初から、顧問の澤和樹氏（東京芸術大学助教授）をはじめとする優秀な指導陣に恵まれて、現在はシンフォニーヒルズを活動拠点とし毎週楽しくも厳しい練習を重ねています。94年6月にはJ R 東京駅「エキコン」に出演、また96年12月には葛飾区民合唱団とのジョイントコンサートを行い大好評を博しました。まだ歴史の浅いオーケストラですが、年2回の定期演奏会のほかにも、地域での福祉施設への訪問演奏会など意欲的に活動の幅を広げており、「わがまちのオーケストラ」としてより一層区民に親しまれるように頑張っています。

## 出演者

1st Violin	2nd Violin	Viola	Violoncello	Contrabass	Clarinet	Trumpet
亀井 玲子 (市)	石本 恵理 (市)	浅野さとみ (市)	倉沢 由和 (市)	池田 和正 (市)	井垣 貴嗣 (市)	安藤 宣明 (市)
鈴木 薫 (市)	小林 千晶 (市)	竹内ひとみ (市)	瀬川 清 (市)	菊地 克彦 (市)	時田 雄 (市)	一柳 泰一 (市)
鈴木 淳子 (市)	須永 恒雄 (市)	奈良林弘子 (市)	中村 公一 (市)	鈴木 重則 (市)	吉野 智久 (市)	新井本昌宏 (市)
堂本 祐司 (市)	根守 弘和 (市)	星 乘昭 (市)	南明由美子 (市)	長谷川隆子 (市)	石井千夏乃 (江)	北村 芳嗣 (江)
永田 匡 (市)	久田しげ子 (市)	水野 桃子 (市)	根岸 朋子 (市)	村上 信乃 (市)	遣田由美子 (葛)	柳田 光宏 (葛)
福原 亜希 (市)	平野 弘子 (市)	村上 賢一 (市)	樋口 進 (市)	八織 健 (市)		
福原 祥子 (市)	三木美千子 (市)	横田 行雄 (市)	日澤 優 (市)	安井 里子 (江)	Fagott	Trombone
松延 裕子 (市)	溝田 範子 (市)	若林 繁 (市)	福原 耕二 (市)	石橋 俊一 (葛)	菅原 斉 (市)	久保 昭 (市)
松山 和子 (市)	村上 葉子 (市)	渡部 玲子 (市)	横田 朝之 (市)	伊藤 智深 (葛)	古屋 文弘 (市)	佐野 義人 (市)
村田いずみ (市)	村田 康代 (市)	可香谷尚三 (江)	稲見 行男 (江)	佐藤 晋 (葛)	原口 忠博 (江)	藪崎 裕至 (市)
小川有美子 (江)	横田佐貴絵 (市)	島田 順 (葛)	内尾 泰子 (江)	前中 恭子 (葛)	海老澤明子 (葛)	豊中 修 (江)
福井 康祐 (江)	吉岡 一郎 (市)	沼田 美恵 (葛)	大中 節子 (江)	三輪 哲也 (葛)	西村 周作 (葛)	長谷部良太 (江)
山田 泉 (江)	大江 利道 (江)	野部 実 (葛)	川崎 義人 (江)	山本 広和 (葛)	早川 志保 (葛)	井上裕美子 (葛)
荒川 奈月 (葛)	河原 麻子 (江)	平山 顕 (葛)	竹前 英子 (江)			阿島 哲夫 (勤)
裏 俊男 (葛)	北島 幸子 (葛)	藤沼 泰雄 (葛)	稲村 清行 (葛)	Flute	Horn	Tuba
小久保 明 (葛)	佐藤 欣三 (葛)	松崎 敦子 (葛)	杉山 恵彦 (葛)	佐藤 洋行 (市)	近藤 利昭 (市)	浩 (市)
田上 典子 (葛)	柴 貴子 (葛)	高橋あき子 (葛)	山本 進 (葛)	木村 純一 (市)	嶋村 恒夫 (市)	谷口 仁美 (市)
垂水謙太郎 (葛)	高橋あき子 (葛)	岸本 雅子 (勤)	宮越 肇 (葛)	木村真論紀 (市)	藤井 茂司 (市)	新井 幸司 (江)
長 敏哉 (葛)	玉村 栄子 (葛)			中川 直美 (江)	山本 恭子 (市)	
富田 直子 (葛)	宮下 道代 (葛)			三輪 弦子 (江)	斉藤小枝子 (江)	Percussion
中西 文男 (葛)	森 健 (葛)			岡部 哲二 (葛)	染谷 規一 (江)	岩崎 正治 (市)
吉岡 千鶴 (葛)	浅川 典子 (勤)			松田 聡 (葛)	穂刈 純一 (江)	谷口 仁美 (市)
森島 聖 (勤)	小侯 由佳 (勤)				増田 稔 (江)	都築 裕 (市)
				Oboe	秀田 安高 (葛)	磯田 葉子 (葛)
				大坪 昌彦 (市)		大沼 克己 (葛)
				二村 直子 (市)		阪口 雄二 (葛)
				吉村 紀智 (江)		八十島光子 (葛)
				福島 綾子 (葛)		
					Harp	
					篠原 英子 (勤)	